



―発掘が解き明かす新たな水戸史のページ―

水戸を握る！

令和八年度 水戸市埋蔵文化財センター企画展



令和8年

10/3  12/27 

水戸市埋蔵文化財センター
(大串貝塚ふれあい公園内)

開館時間：午前9時～午後4時15分

休館日：月曜日

(ただし月曜日が祝日と重なった場合は翌日)

入館
無料

主催：水戸市教育委員会

お問い合わせ先

水戸市教育委員会事務局教育部 歴史文化財課 埋蔵文化財センター
〒311-1114 茨城県水戸市塩崎町 1064-1 Tel：029-269-5091
E-mail：daidarabo@city.mito.lg.jp

水戸を 掘る！

水戸市内では年間約120件の試掘・確認調査と約10件の本発掘調査が行われており、市内のどこかでほぼ毎日、埋蔵文化財の調査が行われています。

埋蔵文化財の調査には大規模な発掘調査や小規模な試掘調査、さらには工事の立会調査などがあります。そして、その規模の大小にかかわらず、時には貴重な発見があったり、水戸の文献史を裏付けるような結果が得られるようなことがあります。

本展の前半を構成する「いにしへの送り」「江戸時代の街道と町人の屋敷」では、近年の市内で行われた発掘調査成果の一部を速報でお伝えします。

また、後半となる「これってどういう遺物？」「調査員が選ぶこの一品」では、調査員が選ぶ謎深い遺物や、選りすぐりの遺跡や遺物を紹介します。今回の企画展でみなさんの「宝」としての埋蔵文化財の面白さ、素晴らしさを知ってもらえたら幸いです。

企画展概要

1 いにしへの送り ―古墳、古代から中世の葬送と儀礼―

亡くなった人を送る葬送の形は時代によって変わりますが、その人を悼む想いは今も昔も変わりません。

ここでは、近年、河和田城跡の土塁の下でみつかった中世のお墓から出土した銭や副葬品、供養塔などと、酒門町にある宿前遺跡で発見された古代の火葬墓を紹介します。

2 江戸時代の街道と町人の屋敷

江戸時代に街道として整備が行われた旧水戸街道（江戸街道）は、江戸（東京）を始点に、水戸市下市の銷魂橋（たまげばし）を終点として結ばれました。

これまで水戸市内では江戸時代の街道の跡は確認されていなかったため、道路の幅や構築方法はわかっていませんでした。しかし近年、元吉田原遺跡において実施した試掘調査で、初めて旧水戸街道の痕跡を見つけることができました。

ここでは、江戸時代の水戸街道の痕跡と、街道に関連した江戸時代の人々の生活に焦点をあてて解説します。

3 これってどういう遺物？―なんだか用途の分からない遺物たち―

遺跡を調査していると、何に使ったのか分からない遺物が出土することがあります。

堀遺跡や梶内遺跡から出土した「壺G」と呼ばれる遺物。用途は諸説あり、かつおの煮汁を都に運ぶ容器、水筒などといわれています。生産場所も静岡県のみで作られたと考えられていますが、なぜ静岡から遠く離れた水戸で発掘されたのか？

ここでは、そんな「壺G」の謎に迫ります。

4 調査員が選ぶこの一品

水戸市内での日々の発掘調査で発見された遺跡や遺物の中から、当センターの調査員が選りすぐりの一品を、発掘調査時の状況や当時の心境を交えながら、みなさんに紹介します。



元吉田原遺跡出土 旧水戸街道の側溝



堀遺跡出土 壺G

堀遺跡出土
文政南鐙一朱銀

交通案内



自動車 東水戸道路「水戸大洗I.C.」から5分
バス 水戸駅から「大串公園」下車徒歩2分
電車 大洗鹿島線「常澄駅」から徒歩30分